

松本市議会  
ステップアップ市民会議

～若者の政治（市政・地方自治）への関心を高めるために～

提言書

平成28年12月9日

## 目 次

1	はじめに	P 1
2	現状と背景	P 1
3	提言	P 2
	【提言 1】	P 2
	【提言 2】	P 4
4	参考資料	P 5
	別紙（アンケート結果）	P 7

## 1 はじめに

人口減少社会に直面する現在の日本において、若者の政治参加は不可欠である一方、近年、国政選挙、地方選挙を問わず、若者を中心に投票率が低下しています。平成28年7月に執行された参議院議員選挙から、選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられ、より多くの若者が、選挙を通じて政治に参加する機会を得た今こそ、地方自治の一端を担う松本市議会も、若者の政治への関心を高める取組みを積極的に進め、若者の政治参加を促していくべきであると考えます。

そこで、私たち、松本市議会ステップアップ市民会議の委員は、「若者の政治（市政・地方自治）への関心を高めるために」をテーマに、平成28年1月に委嘱されて以降、一市民の立場から議論を重ね、この課題に対して、「松本市議会にはどのようなことができるのか」を検討し、このたび、その結果を提言としてまとめました。

## 2 現状と背景

まずは、若者の政治への関心が低い背景について考察し、取組みの方向性を整理しました。

### (1) 若者の現状

ア 一般的に「政治への関心が低い」と言われている若者の中にも、政治に関心を持つ層はおり、一括りにすることはできない。また、平成23年に発生した東日本大震災以降、自分の故郷に関心を持つ若者や社会に貢献したいと考える若者は増えてきている。

イ 一方で、政治や社会に対する関心はあっても、そのことが選挙での投票をはじめとする具体的な行動（政治参加）につながっていない。

### (2) 政治への関心が低い理由として考えられるもの

ア 自分達の意見がどのように政治に反映されていくのか、イメージがつかめていない。

イ 政治や政治家（議員）との距離を遠く感じている、また自分達の意見が政治に届かないという無力感がある。

ウ 「選挙で誰を選べばよいのか」など、社会に出てから自分の立場を決めていく際に、学校の授業から得た知識だけで判断するのは難しい。

エ 家庭内や学校をはじめ世間一般において、政治的な話題を避ける雰囲気がある。

### (3) 取組みの方向性

政治への関心が低い理由について考察するなかで、**政治や議員について「若者にも理解できる」という視点からのアプローチが足りなかった**ことが背景にあるのではないかという結論に至りました。

そこで、「政治や議員との距離を縮めること」

「政治に対する関心のすそ野を広げること」という2つの方向からアプローチすることが、この課題の改善につながるものと考え、具体的な取組みを検討していくことにしました。

## 3 提言

これまでの会議のなかで、各委員から出された意見、及び上記で整理された方向性を踏まえ、「松本市議会にできる取組み」を次のように提言します。

### 【提言1】

若者と市議会議員との交流を通じた政治との距離を縮めるような“場”の創出

#### (1) 提言内容

若者の政治への関心が低い理由として、「議員との距離が遠く、議員の活動が見えないから」という点が挙げられていることから、議会への理解を深め、議員を身近な存在に感じられる取組みが必要であり、また、その際には「松本市議会は若者の意見を取り上げていく」という積極的な姿勢を示すことが重要になります。

そこで、若者と松本市議会議員が、身近な話題等について、気軽に話し合うことができる、“ゆるやかな交流の場”（プラットフォーム）を設けていくことを提案します。

#### ア “ゆるやかな交流の場”の創出の方向性

市議会側が一方的に“交流の場”を設定し、参加者を募る方法は、若者にはハードルが高いと感じられ、また、参加者も政治に関心がある一部の層だけにとどまることが懸念されます。政治に関心がない若者も含め、幅広い層の若者に働き

掛けるという観点から、既存の若者の団体や組織に対して、市議会議員自らが率先して出向き、そこで若者の意見を聴き、交流していくという方法が有効です。

例えば、松本市議会が平成27年度から取組みを始めた「高校生との交流事業」では、議員自らが学校の授業に参加し、生徒との意見交換を行っていますが、政治に関心がある、ないにかかわらず様々な考え方の若者が集まる「学校」に対してアプローチしており、一つのモデルケースになると考えられます。

今後は、この事業の対象を大学生や義務教育段階（小・中学生）にも広げ、「学校」という組織を“交流の場”として活用し、それぞれの年代層のニーズに則した形で交流が持てるように検討をお願いします。

また、ステップアップ市民会議の委員が関わっている団体や組織（まつもと子ども未来委員会等）と連携し、「若者と市議会議員との距離を縮める」という観点から、“交流の場”の創出に取り組んでいく方法もあります。

例えば、こうした団体や組織の事業の一環として、市議会議員と交流する機会を設定してもらい、あるいは、団体や組織に参加している若者の意見を取り入れながら市議会議員との“交流の場”を企画していくといったことが考えられます。

若者の視点に立ち、政治に関心がない若者も含め、幅広い層の若者が気軽に参加できる、参加したくなるような、若者が若者を呼ぶ“交流の場”の創出について検討をお願いします。

#### イ “ゆるやかな交流の場”の中身のあり方

政治に関心があっても具体的な関わり方がイメージできない若者も多いなかで、市議会議員との“交流の場”においては、単に若者の意見を聴いて、話し合うだけで完結するのではなく、さらに一歩進んで、若者の意見や考えが、議会へのアプローチを通じて何らかの形で反映されるような参加・体験の仕組みを取り入れていくことを検討してください。

例えば、若者の意見を請願や陳情など“議会を通じて実現する手段”につなげていくことができれば、若者は「政治に参加しているという感覚」を持つことができます。また、その結果を若者にフィードバックすることで、「自分達の行動により現実が変わる経験」につなげることができると考えます。

## (2) 効果

若者には市議会議員と接する機会が少なく、また、市議会議員も知り合い以外の若者と関わりを持つ機会が限られていることから、“交流の場”を設けることは、このような両者が接点を持つための有効な手段となり得ます。また、この“交流の場”を通じて、若者自らが具体的な課題を見つけ、どう解決していくかを考え、さらには政策をつくる段階まで発展する可能性も考えられ、若者の「当事者としての意識」の醸成に大きく貢献することが期待できます。

### 【提言2】

#### 若者や子ども向け「議会だより」の発行

##### (1) 提言内容

市議会からの情報発信の一つとして、「まつもと市議会だより」が年に4回発行され、市内全世帯への配付や市議会ホームページに掲載されているほか、配信アプリによりスマートフォンやタブレット端末での閲覧も可能になっています。一方で、若者の中には、「市議会の中で議論されて決まったことが、自分達の生活にどう関わってくるのかがわからない」という声があり、「若者にも理解できる」という観点から市議会の活動を伝え、政治や議会への関心につなげていく取組みが必要です。

そこで、小・中学生や高校生等に向けた、わかりやすい「議会だより」の発行を提案します。現在の「市議会だより」の子ども版という位置付けではなく、若者や子どもに関連する政策や取組みをトピックとして取り上げて詳しく説明する、といった内容にすることで、自分達の生活や暮らしに、政治や議会がどう関係しているかを若者や子どもに伝えるための有効な手段になると考えられます。また、例えば、教師が授業の教材として使う、保護者がPTA活動等の際に紹介する、あるいは、公民館活動等で取り上げてもらうなど、【提言1】に掲げた“交流の場”において、この「議会だより」を活用していく方法も考えられます。

「議会だより」自体は、多くの若者や子どもの目にとまるように漫画や絵を入れるといった視覚的な工夫や、それぞれの年代層に即したわかりやすい表現方法を検

討してください。また、配付方法についても、若者や子ども全体に周知されるよう、各学校を通じた配付のほか、ソーシャルメディア等新たな情報発信の手段も活用し、松本市議会の新しい広報のモデルとなるよう検討をお願いします。

## (2) 効果

若者や子どもに向けた情報発信は、これまでの松本市議会に足りていなかった分野であり、市議会の活動を若者や子ども目線で伝えることにより、政治に関心を持つきっかけになることが期待できます。また、「議会だより」を編集する際に、若者の意見を取り入れたりする仕組みができれば、政治や議会について自ら調べたり、考えたりする機会となるほか、配付や活用方法を工夫することで、子どもを通じて保護者（親）世代の政治に対する関心を高める波及効果も期待できます。

## 4 参考資料

### (1) これまでの開催経過

- |       |           |  |
|-------|-----------|--|
| 平成28年 | 1月22日     | 第1回松本市議会ステップアップ市民会議<br>(委嘱状交付、自己紹介、座長の選出)          |
| 平成28年 | 3月17日     | 第2回松本市議会ステップアップ市民会議<br>(市議会からの情報提供、意見交換)           |
| 平成28年 | 5月31日     | 第3回松本市議会ステップアップ市民会議<br>(方向性の検討と共有化、事例紹介、意見交換)      |
| 平成28年 | 7月20日～29日 | 大学生（松本大学総合経営学部1・2年生）を対象に<br>参議院議員選挙の投票に関するアンケートを実施 |
| 平成28年 | 8月26日     | 第4回松本市議会ステップアップ市民会議<br>(アンケート結果の報告、グループに別れて意見交換)   |
| 平成28年 | 10月26日    | 第5回松本市議会ステップアップ市民会議<br>(具体的な取組みと提言内容の検討)           |
| 平成28年 | 11月22日    | 第6回松本市議会ステップアップ市民会議<br>(具体的な取組みと提言素案の検討、会議の振り返り)   |

(2) 松本市議会ステップアップ市民会議委員名簿

(五十音順)

職名	氏名	備考
委員	おか だ ただ おき 岡 田 忠 興	公募委員
委員	お ざわ しゅう いち 小 澤 修 一	株式会社松本山雅
委員	きた はら とおる 北 原 透	松本市青少年補導委員協議会
座長	しりなしはま ひろ ゆき 尻無浜 博 幸	松本大学
委員	たか やま りょう た 高 山 良 太	公募委員
委員	はやし ひで ひこ 林 秀 彦	公募委員
委員	はら りょう ま 原 侖 磨	公募委員
委員	まつ やま ひろ こ 松 山 紘 子	公募委員
委員	みや ぼやし たか こ 宮 林 孝 子	松本市子ども会育成連合会
委員	よし ざわ ゆき こ 吉 澤 由紀子	松本市PTA連合会

(任期：平成28年1月22日から平成29年4月30日まで)

(3) 参議院議員選挙の投票に関するアンケート結果 (大学生対象)

別紙のとおり



7月10日（日）参議院議員選挙の投票に関するアンケート結果

質問1. あなたは今回の選挙は、投票しましたか？

- A. 投票した（ 67% ）                      B. 投票しなかった（ 33% ）  
（実数：263名中176人）                      （実数：263名中87人）

（A. を選んだ人は→質問2. へ進んで下さい。 B. を選んだ人は→質問3. へ進んで下さい。）

質問2. 「投票した」理由を教えてください。（該当する項目に複数OK）

- (1) 国民の義務として                      ( 52.8% )  
(2) 選挙権が与えられたから              ( 60.8% )  
(3) 支持する政党があったから            ( 9.7% )  
(4) 支持する候補者がいたから            ( 4.0% )  
(5) 支持するマニフェスト（内容）があったから ( 5.1% )  
(6) 親や兄弟姉妹、親戚の薦めがあったから ( 27.8% )  
(7) 特別な理由はない                      ( 12.5% )  
(8) その他                                      ( 2.8% )

→質問4. へ

質問3. 「投票しなかった」理由を教えてください。（該当する項目に複数OK）

- (1) 投票日を知らなかった                ( 5.7% )  
(2) 投票所入場券が手元になかった ( 29.9% )  
(3) 投票する時間がなかった              ( 43.7% )  
(4) 投票する方法を知らなかった        ( 8.0% )  
(5) (そもそも) 誰に投票すればよいのか分からなかった ( 16.1% )  
(6) 考えた結果、支持する政党・候補者・政策がなかった ( 9.2% )  
(7) 特別な理由はない                      ( 14.9% )  
(8) その他                                      ( 11.5% )

→質問4. へ

質問4. 20歳代の投票率の低下が社会問題視されていますが、あなたは、なぜだと思いますか？（自由記述）

- ・高齢者の意見だけになる（意見が多く反映される）
- ・政治に対する思いの低下（政治について理解があまりない）
- ・「皆が行ってない」とニュースで多く言うのと「皆が行かないなら私も行かない」となる
- ・若者の興味をひかない
- ・若い人向けの政策が少ない
- ・投票に行くのが面倒と思う人が多い
- ・自分が投票した選挙の結果に自分の考えが反映されているという実感がわからない
- ・世間が若者に意見を求めている
- ・投票への意識が低い
- ・そもそも30代、40代の親の投票率も少ないので今の20代も低くなる
- ・信頼できる候補者がみえない
- ・最近の政治家のお金の問題で不信感が募っている
- ・他人が投票するので自分が投票しなくても良いと思っている
- ・「前も行かなかったから今回もいいや！」という思いの繰り返し
- ・マニフェストが若者向けではなく高齢者向け
- ・家庭内で政治の話をあまりしない
- ・まだ成人したばかりで社会のことをあまり知らないため、政治のことに興味関心が薄い
- ・投票権はあるけど、政治についてまだわかっていない
- ・日本の政治問題にまだ興味を持ってなく、支えていく準備ができていない
- ・今の日本に不満がなく生活できている
- ・政治の内容など難しいものと考えてしまう
- ・実際、お金や生活に困っていないのでこのままだでもいいと思っている
- ・自分には関係ないと思っている人が多い
- ・老人にこびている政治家がほとんど
- ・仕事が手いっぱい忙しかったりしている
- ・学校で国や地方自治体の選挙に参加する仕方や意義を教わってこなかった
- ・立候補者について知らない
- ・誰が誰だか分からない
- ・自分の生活との関係を理解していない

- ・「投票してもどうせ何も変わらないではないか」と思う若者が増えてきている
- ・世代的に責任感がない
- ・政治家は投票してくれる高齢者が得をする政策を作っていくのでその悪循環によるもの
- ・支持する政党、政策がなかった
- ・ニュースを見る機会が減った
- ・みんな他人事
- ・政治に関心が薄い年代
- ・一票の力を弱いとみている
- ・行っている時間がない
- ・普通に面倒くさい
- ・誰を投票するのか分からない（誰に投票していいのか）
- ・なかなか政治について考える時がない
- ・政治自体がとても難しい
- ・みんな言っていることが同じに聞こえてしまう
- ・政治家が政治家の意見だけで国を変えようとしている
- ・若者がこれからの社会を担うという気持ちを持っている人が少ない
- ・政治が我々に何かをするのを待つより、個人が努力することで改善できることが多い
- ・政策を知る機会が少ない。また、政策を調べようとする気持ちも育っていない
- ・「家庭」や「仕事」での「責任」を取る場面が少ない
- ・地元になかったり、帰ることが困難だと思う
- ・政治に関する教育が全く不十分
- ・若年層の考えの幼稚化
- ・人口の中で若年層がそもそも少数のため、価値がないと自分達で思っている
- ・政治は変わらないというあきらめ、行くことによって得られるメリットがないと思っている
- ・若者自身が自分たちの将来をきちんと考えられていない（自分たちの将来に関心が無い）
- ・「勉強だから」程度にしか政治を学んでいない年齢が、選挙公約や専門用語を聞いても理解できる部分が少ない
- ・社会経験が少ないので、誰かがやってくれるという意識がある
- ・選挙活動している場所に遭遇しない

文責：尻無浜博幸（松本大学）

2016年8月26日